



福島大学の学生と村民が世代間交流

1月18日、佐須公民館で、地区の住民12人と福島大学行政政策学類・大黒ゼミの学生20人による交流会が開かれました。学生の皆さんは事前に少人数のグループで村民の家庭を訪問し、農作業の手伝いなどで交流。当日は、訪問時の感想の発表からスタートし、それぞれがこれまでの経験や現在の悩みなどを素直な言葉で語り合いました。少子高齢化の時代に、大学生世代と高齢の住民が向き合い将来を話し合う貴重な機会となりました。



役場玄関に美しい「だんごさし」

1月12日、前田行政区の皆さんが、昨年に続いて役場庁舎に「だんごさし」を飾ってくださいました。「だんごさし」は、色とりどりの団子や縁起物をミズキの枝に飾り、五穀豊穡を願う小正月の伝統行事。美しく飾られた大きな「だんごさし」が入口ホール正面の階段に飾られると、辺りが見事に華やいで、来庁者や職員が写真を撮るなどして観賞していました。



前田行政区が研修会を開催しました

12月12日、前田行政区が研修会を実施しました。今回の研修会は、住民同士の交流を図りながら、村内外の復興状況を視察しようと企画されたもので、12人が参加しました。当日は、前田公民館からバスに乗り込み出発。蔵平地区で整備が進む木質バイオマス発電施設「飯館みらい発電所」、富岡町の「とみおかアーカイブ・ミュージアム」、浪江町の「道の駅なみえ」を巡り、各地区の復興状況を体感しました。



おいしい唐揚げのプレゼント

12月21日、長谷川芳博さん(伊丹沢)から、までの里のこども園といたて希望の里学園の子ども達に、鶏の唐揚げがプレゼントされました。長谷川さんは、自家農園の野菜を使った手作り惣菜や弁当を販売する店「だんらん」(福島市岡部)を経営しています。唐揚げは冷凍品で届けられ、子ども達がそれぞれ自宅に持ち帰りました。クリスマスの時期、毎年のように子ども達へさまざまなプレゼントを届けていただき、ありがとうございます。



図図倉庫 現代アートのだるまを展示

12月から1月にかけて、図図倉庫でだるまをモチーフにしたアート作品が展示されました。国際芸術村のある西会津町で、現代アーティストの新井毬子さんが、中学生と共に制作した作品です。神棚と1cmに満たない小さな作品の制作から始まり、素材とサイズを変化させながら2年をかけて20体を制作。高さ4mの巨大なだるまは、プロジェクションマッピングで表情が現れます。展示を終了した後、1月20日に、綿津見神社で作品のお焚き上げが行われました。



だるまも立体的
せんべいです。
飯館限定!
特製の白いだるま
で絵付けも体験。

綿津見神社でお正月飾りを作りました

多彩な企画で人と人をつなぐ有志のサークル「スラー」が、1月13日、綿津見神社で『稲穂せんべい飾り』のワークショップを開催しました。講師は「井上の大黒せんべい稲穂飾り」(南相馬市)の4代目、井上哲弥さん。参加者は、飾りの意味を教わり、新年に願いを込めて、美しい飾りを仕上げました。また、皆でご祈祷を受けたりぜんざいが振る舞われたり、心温まるひとときを共に過ごしました。



講師の井上さん。伝統のせんべい型も披露。



永井川カフェが被災地へ義援金

幅広く参加者を募り、村民同士の交流を深める『愉快な幸せカフェ永井川』。1月16日に永井川集会所(福島市)で『飯曾小唄の世界に触れる』を開催し、「飯曾小唄保存会」が製作したDVDを鑑賞しました。また、震災で多くの善意に支えられた経験を感じを持って振り返り、能登半島地震義援金募金を実施。「被災者を支援したい」と4万2,086円を集め、福島民友新聞社を通じて被災地へ送りました。



ライオンズクラブからホームに花

12月25日、飯館ライオンズクラブ(佐藤真弘会長/二枚橋・須萱)から、特別養護老人ホーム「いたてホーム」に贈り物が届けられました。贈り物は、ピンク色のグラデーションが美しいシクラメン12鉢と、純白のアンズリウムです。同クラブのメンバーから花を受け取った入居者の皆さんは、「きれいですね」と笑顔を浮かべて花に見入っていました。ちょうど見頃の鉢花は、それぞれよい場所に飾られて、施設内をやさしく彩りました。